

週刊新社会

2月27日



2018年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

28日10時から3月予算議会が始まります

18歳以上の国保加入者 無料健診へ 基金活用で大胆に国保施策展開

2月19日に開かれた第5回国
民健康保険運営協議会は、

①はり、きゅう、あん摩等施設利
用券について、前々回に決めた1
枚当たり500円への減額をこれま
で通り800円に戻す

②40歳以上対象の特定健康診査
同様の健診実施補助を18歳から
40歳未満の被保険者に拡大する

③人間ドックの一部助成対象を40
歳以上75歳未満の従来方針を拡
大し、18歳から75歳未満とする、

④特定健診の一部負担(800円)
を廃止して無料にする

⑤健康ポイント事業実施

を決め、新年度国民健康保険特別
会計予算案を了承した。

①の施設利用券を元に戻すのは
当然としても、②は新たに540万
円、③は拡大することによって
800万円増で、人間ドック関係予
算は2600万円を見込む。さらに

訂正】国保料引き下げを伝えた
1806号で掲載した「表1保険料
比較」中、19年度とあるのは18
年度の間違いでした。訂正します。

訂正2】1807号の介護保険料区分表中、第9段階と第10段階の所得区分が()内のように変更されます。

第9段階	本人が市民税課税者で合計所得金額が190万円以上290万円未満(18～20年度は200万円以上300万円未満)	1.50	90,000	7,500	1.50	93,400	7,785
第10段階	本人が市民税課税者で合計所得金額が290万円(18～20年度は300万円)以上400万円未満	1.70	102,000	8,500	1.70	105,900	8,823

④では900万円増額となり、1億
2200万円の予算が計上される。
そして健康ポイント事業予算は
1325万円を見込んでいる。

とりわけ、18歳以上(国保加
入者のみ)で始まる健康診断や人
間ドックは、社会保険に入れない
非正規労働者の健康を守るタイ
ムリーな施策であり、歓迎される。
もちろん、制度の周知が十分でな
ければ実効性はないが。

なぜ、一人当たり平均1万
2473円の保険料引き下げに加え、
今まででは考えられなかった施策
が入った予算案となったのか。

それは約20億7000万円もため
込んだ基金(貯金)は県単位の広
域化に伴い、基本的に不要となる
からだ。年度途中で医療費が急増
するなどの場合は県が財政調整す

健康ポイント制度

4月から始まり、ポイント対象
事業への参加や受診、実行でポイ
ントがたまり、1000ポイント単
位で千円相当の商品券やクオカー

る仕組みに変更になった。

もちろん、県が財政支出すれば
次年度以降、市の保険料が高くな
る恐れがあるので、現在保有して
いる基金は慎重に運用されよう。
したがって、国保運営協議会にお
いて、市は保険料については毎年
計算して必要なら変更すると発言
している。また、原則的に市の一
般会計からの法定(制度)外繰り
入れはやらないことになったが、
必要なら検討するとも言及した。

また、予防対策に力を入れるこ
とや、特定健康診査の受診率向上
は保険者努力支援制度で収入が増
えるのだ。

非正規雇用などで企業の社会保
険に入れない低所得の青壮年が、
社会保険に比べてはるかに高い国
民健康保険料が払えずに、皆保険
が崩壊しつつある現在、野田市は
良い方向に一步を踏み出した。し
かし、抜本的な国の制度改善がな
ければすぐに足踏みに入ろう。

ド、まめバス回数券と交換するこ
とができる。

なお、年間一人3千円分が上限
となるが、詳しくは新年度に発行
予定のチラシ等を見てほしい。

種子法廃止・農薬・遺伝子組換え作物 食べ物がみな毒になる…

「やがて、食べ物がみな毒になる…」。種子法廃止でこう警告するのは、地域での脱原発やリサイクルの運動を出発点に、環境、経済、平和などの NGO 活動に関わる環境活動家の田中優氏。

彼のブログ（有料なのでとりあえず「日本の農業をぶっ壊す種子法廃止、なぜほとんど話題にならない？」で検索を）は、なぜアメリカは遺伝子組み換え作物として大豆とトウモロコシなどを推進する中、小麦に規制をかけているのかと問い、グリフォサート（商品名ラウンドアップ）の販売数量が自閉症児・者増大と比例しているデータ（米国）を突きつける。

さらにグリフォサートは人間が体内で作ることができない必須アミノ酸のトリプトファン組成を妨げることで草を殺すが、トリプトファンは人間がインスリンをつくるために必要なアミノ酸。それが不足すれば糖尿病に陥るし、実際アメリカでは糖尿病などの慢性疾患の増加とグリフォサートや遺伝子組み換え作物栽培の増加が比例しているデータを示している。

そして 4 月 1 日に廃止される種



農薬散布写真 署名運動サイト Avaaz から

子法で、安くて安全第一にコントロールしていた主要農作物種子（稲、麦、大豆）を、なぜ民間（アグリビジネス）に開放するのか、そのたどり着く先は「やがて、食べ物がみな毒になる」と訴える。

遺伝子組換え食品表示はざる状態

実は日本は農薬大国でミツバチの大量死で問題になったネオニコチノイド系の農薬は EU で規制が

進むが、日本ではほぼフリー。しかし、水田のカメムシ対策に使われるネオニコチノイド系の農薬に対して、野田市はそのような農薬ではなく、玄米黒酢散布や畔の草刈りに対応するようになっていく。しかし、川の上流で松くい虫対策の同種農薬がまかれ、水に溶けて流れてくる。

食料を選択できるうちはまだよいかもしれない。しかし、遺伝子組み

換え作物しかなくなったらどうするのか、そこまでいなくても高値では手が出せないという所得格差はてき面に利いてくる。

それでは「遺伝子組み換え作物ではない」という表示は当てになるのだろうか。

まず、遺伝子が分解されている加工品ならいいと表示しなくいいことになって、「味噌・醤油・油」の原料に使われている。素材の 5% 以下ならオーケー、さらに多い成分量から 3 位以下でも構わないのではざるそのものだ」と田中氏は指摘する。

「農」とは大企業のものなのか、それとも人々が生きるためのものなのか。種子は自然から与えられた生きるための糧だった。それを再度、人々の手に戻すべきではないか、後世に大きなツケをまわす技術は原発同様やめるべきだと田中氏は訴える。



ヘルマン・ゲーリング

ピョンチャンオリンピックが終わった。オリンピックは平和の祭典との信念からバツハ IOC 会長は朝鮮半島の両国の共同参加を追求し、南北首脳はそれに応えた。

それにお冠だったのは日米のトップ。平和の兆しは自らの存在と軍事費増強に反するとけん制し続けた。彼らはゲーリング（ナチ党の No. 2）のいう普通の人間ではないのだろう。おぞましい限りだが、マスコミは追随した。